

JAGT 日本ゲシュタルト療法学会


JAGT

日本ゲシュタルト療法学会

## 第6回学術大会プログラム

大会テーマ

「 関係的視点とゲシュタルト療法の拡がり 」

A cluster of sunflowers with dark brown heads and bright yellow petals, set against a soft, out-of-focus background. The flowers are positioned in the lower-left quadrant of the page.

開 催：2015年7月18日（土）～19日（日）  
会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター  
大会長：檀野竹美  
（ゲシュタルト・アソシエイツ・ジャパン）

## 第6回学術大会に寄せて

日本ゲシュタルト療法学会 第6回学術大会  
大会長 檀野 竹美

2015年度の日本ゲシュタルト療法学会は、創設期の5年間を経て、発展期を迎えようとしています。

これまでの学術大会のテーマは、「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」「ゲシュタルト療法の基礎と多様性、それらを繋ぐ創造性」「境界と絆」と、さまざまな視点からアプローチしてきました。

第6回学術大会のテーマは、「関係的視点とゲシュタルト療法の拡がり」です。ゲシュタルト療法を開発したフレデリック・パールズ、ローラ・パールズとポール・グッドマンは、多くの療法、学問、理論からの影響を受けているのは皆さんご存知の通りです。彼らは実存主義哲学、現象学、精神分析、性格分析、場の理論、ゲシュタルト心理学、東洋思想、サイコドラマ、演劇といった要素とヒューマニスティック心理学を生み出した時代精神を統合して、当時主流だった精神分析とは根本的に異なったセラピーを生み出しました。

それから60年後の現代にゲシュタルト療法を学び、活用している私たちは、日本での拡がりを知るとともに、学会発足を機に欧米を中心にしたゲシュタルト療法の発展、進化について多くの情報を得ることができるようになりました。

今回の大会では、近年のゲシュタルト療法で使われている関係対話アプローチの第一人者 Lynne Jacobs 博士をお迎えしています。彼女が現在行っているいくつかのトレーニングの中でゲシュタルト療法と精神分析を組み合わせている意味などを交え、パールズ以来ゲシュタルト療法の中心的理論である関係的関わりについて、現在、どのようにワークショップ等で活用されているのかなどを理論的かつ臨床を通じた体験も織り込んで具体的にお話させていただきます。

セラピストが関係的視点を持つことにより、クライアント自身に見えている現象、観点をそのまま受け入れ、受け止めることが可能となり、相互の関係が生まれて互いに『変容の逆説』的動きが生まれてくるのです。2日目にはその理論に基づいたワークを博士ご自身がデモンストレーションしてくださる予定です。皆さん、是非ご体験ください。

シンポジウムでは、認知行動療法、精神分析、森田療法、そしてゲシュタルト療法の国内第一人者に「各療法の独自性と共通性」というテーマで意見交換していただきます。開発者が作り上げた理論を基にそれぞれの療法の独自性を生かしながら変化しているなか、近年の心理療法はヒューマニスティック心理学の要素を含んだ理論を展開している部分が多くみられます。そこにある共通性が見いだせるシンポジウムになると考えています。他の療法の現在を知ることで、ゲシュタルト療法がさらに拡がるきっかけとなることでしょう。

また、今年の研究発表は、ゲシュタルト療法と他療法とを使った事例、精神分析的視点を取り入れた事例、ビジネス分野での応用など、幅広い視点からバラエティに富んだものとなっています。発表されるそれぞれの方の実践や経験、研究を共有し、参加者との意見交換が活発に行われることを期待しています。



# 学術大会プログラム

※大会会場は、全てセンター棟4階です。

7月18日(土)

9:30～	開場・受付	
10:00 ～10:15	開会式 <span style="float: right;">&lt;416室&gt;</span>	
10:15 ～12:30	<b>基調講演 「関係的視点とゲシュタルト療法」</b> <b>Lynne Jacobs 博士</b>  <p>Gary Yontef 博士と共に P G I (Pacific Gestalt Institute) を設立。自らをゲシュタルト精神分析家としている。          関係対話アプローチに関する論文も多数発表しており、世界的な第一人者として認められている。ゲシュタルトセラピストとして、また精神分析家として “現代精神分析” にも造詣が深い。          近年、ゲシュタルト療法と精神分析の長所を融合、関係性の癒しが軸となったプログラム「関係性ゲシュタルト訓練」開発。</p>	
12:30 ～14:15	JAGT 総会 (学会員のみ) <span style="float: right;">昼食・休憩</span>	
14:15 ～17:00	<b>研究発表 1～4</b> <span style="float: right;">&lt;416室&gt;</span>  <b>大山博幸</b> ロール・プレイングを使った実習場面の再構成による省察的学習 ～サイコドラマおよびゲシュタルト療法スキルを用いて～  <b>中尾文彦</b> ゲシュタルト療法における逆転移と解釈の活用について  <b>三井洋子</b> ゲシュタルト療法をベースに、再決断療法を加えた個人カウンセリングの振り返り ～自殺願望のある事例を通して～  <b>梅田福一郎</b> 現代型うつ”再発予防にゲシュタルト療法で関わる試み	<b>研究発表 5～7</b> <span style="float: right;">&lt;409室&gt;</span>  <b>藤原 勝</b> ビジネス・産業分野へのゲシュタルトの応用 ～クリーブランドゲシュタルト研究所の体験より～  <b>Jacqueline Hilton</b> 日本における『I-Thou(我—汝)関係』の対話によるきずなの探究  <b>岡田法悦</b> 「関係の質」に変化を起こす ～ゲシュタルトをカップルセラピーに生かす～
17:30 ～19:30	懇親会 (オリンピックセンター・国際交流棟1Fレセプションルーム)	

7月19日(日)

<p>9 : 15 ~11 : 45</p>	<p><b>理論と実践 「関係的視点とゲシュタルト療法」</b> Lynne Jacobs 博士 &lt;401 室&gt;</p> <p>18日の基調講演を受け、ワークの実践のデモンストレーションも交えて、関係的ゲシュタルトを体験します。</p> <p>～「関係的な世界観への道すじ」(Lynne Jacobs, 変容する臨床家 現代アメリカを代表するセラピスト16人が語る心理療法統合へのアプローチ, 2013, 福村出版)より～ 「今、ここ」、感情的な即時性、人と人の関わり生き、息をしているという意味では、私は骨の髄までゲシュタルト療法家である。だが、自分のしていることを検討し理解する方法は、思案を重んじる学派である精神分析によって習得したと思う。心理療法の実践のほとんどは、ゲシュタルト療法の体験的な集中訓練と個人的なセラピー体験によって学んだ。だが、2つの重要な例外がある。ひとつは精神分析家ボブ・ストロローの指導のもとで共感的観点による持続的傾聴を学んだこと、もうひとつは精神分析を受けた体験により、手法を学んだだけでなく、情動調律に人を変容させる絶大な力があることを知ったことである。</p>
<p>11 : 45 ~13 : 45</p>	<p><b>昼食・休憩</b></p>
<p>13 : 45 ~16 : 15</p>	<p><b>シンポジウム</b> &lt;417 室&gt; 「心理療法の歩みと現在」～各療法の独自性と共通性～</p> <p>&lt;シンポジスト&gt; <b>認知行動療法 熊野宏昭 氏</b> 1985年、東京大学医学部卒。東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学(東京大学心療内科)准教授を経て、2009年より、早稲田大学人間科学学術院教授。2013年より、日本認知・行動療法学会(旧、日本行動療法学会)理事長。 マインドフルネスやアクセプタンスなどの技法を含む「新世代の認知行動療法」について、特に医療場面で短期間で大きな効果を上げることを目指した研究や実践を行っている。</p> <p><b>精神分析 妙木浩之 氏</b> 1985年上智大学大学院文学研究科博士課程満期退学。北山研究所臨床心理士、佐賀医科大学助教授、久留米大学文学部助教授、2004年東京国際大学人間社会学部・臨床心理学研究科教授。南青山心理相談室臨床の心理士。日本精神分析協会準会員。</p> <p><b>森田療法 岩田真理 氏</b> お茶の水セラピールーム代表、臨床心理士、日本森田療法学会認定心理士。 アライアント国際大学カリフォルニア臨床心理大学院にて修士課程修了。 20代初め、出版社の編集者として「森田正馬全集」の制作に携わったのが森田療法との出会い。著書「森田正馬が語る森田療法」(白揚社)「流れと動きの森田療法」(白揚社)「バースデーセラピー」(共著・辰巳出版)他。</p> <p><b>ゲシュタルト療法 江夏亮 氏</b> 統合的心理療法家、臨床心理士。東京大学卒業後、日本鋼管入社。その後、東京ゲシュタルト研究所のチーフマネージャー、講師を経て1990年～1993年渡米。トランスパーソナル心理学研究所など、アメリカ西海岸を中心に、様々なトレーニングを受ける。現在、カリフォルニア臨床心理大学院日本校准教授であり、江夏心の健康相談室代表として個人セッション、グループワークを行っている。</p> <p><b>コーディネーター 檀野竹美</b></p>
<p>16 : 15 ~16 : 30</p>	<p><b>閉会式</b></p>

ロール・プレイングを使った実習場面の再構成による省察的学習  
～サイコドラマおよびゲシュタルト療法スキルを用いて～

大山 博幸 (十文字学園女子大学)

キーワード：ロール・プレイング、エンプティチェアテクニック、社会福祉士養成、  
省察的学習

## 1. 目的

筆者は学外実習を行った学生が、実際に得た自らの実習経験を振り返り (reflection)、意味づけるといった、省察的学習(reflective learning)に注目している。実習場면을再現・再構成するロール・プレイングは、学生が実際に「生きた」実習経験を教室の中にもたらししてくれる。このロール・プレイングによって、学生は実習後の事後指導の中で、振り返りの対象となる実習経験を得ることになる。学生は振り返りによってその実習経験への意味づけをより深化させることが求められる。筆者はこのような実習事後における学内での学習を省察的学習と位置づける。

本研究では、社会福祉士養成課程における相談援助実習後の相談援助演習で、ロール・プレイングとエンプティチェア・テクニックを中心としたゲシュタルト療法の技法を、省察的学習の手法として用いることを提案、実施し、その意義及び学習効果、課題について検討する。

## 2. 研究の手続き

本手法を筆者自身が担当する X 女子大学の平成 26 年度後期の相談援助演習 V の履修者 13 名に実施した。本授業は半期 15 回で、授業の前半 7～8 回には、主に実習時に抽出したケーススタディの検討とその報告を学生に課した。そして後半 7 回を本セッションの実施にあてた。セッションの時間は一人あたり 15～30 分程度であり、90 分間の 1 回の授業で、2～3 人実施した。セッション中の場면을 IC レコーダーによって記録し、またセッション終了直後、セッションを体験した学生に対して質問紙により記名式で回答を求めた。質問紙は、本セッションを体験して「気づきがあったかどうか」の 5 段階評定の 1 項目、及び向後・鈴木 (1998) の ARCS 授業評価シート (9 段階の SD 法による 16 項目)、セッションを体験しての自由記述、学生の属性に関する項目によって構成されている。対象者 13 名のうち 12 名から有効な回答を得た (有効回答率 92.3%)。セッションの手順を以下に示す。

### セッションの手順

- ①学生に実習中気になったある具体的な場面を一つ選んでもらう。
- ②学生はその場면을教師とメンバー全体に語る。
- ③教師は学生の語りに基づいて、再構成する場면을焦点化し、その場面の再現や展開の仕方を学生に提案する。このとき教師は実習生と共同で再構成する場面の選択と準備を行う。
- ④再構成する場面で必要に応じて、登場人物 (利用者、現場職員、実習生 <もう一人の自分> など) をグループのメンバーから選ぶ。
- ⑤その場면을具体的に再現する。冗長にならずポイントを絞って再現する。またはエ

ンプティチェア・テクニクによる対話を促す。そこからゲシュタルト療法の技法やサイコドラマの技法を用いて展開する。

⑥一通り演じ終えたり、表現し終えたら、「観客」として観察していたメンバーも含んだ全体で振り返り、シェアリングを行う。なおメンバーがロールを演じた場合、一人ひとりに、「役割解除」を行う。

### 3. 倫理的配慮

セッション実施前に学生に本研究の調査の依頼をした。その際、本調査結果は個人が特定されない方法で記入集計したうえで研究のみに使用し、本授業の成績評価とは関連のないこと、ICレコーダーによる記録及び質問紙調査票の記入を拒否することができることを文章にて説明し、了解を得た。

### 4. 結果と考察

本セッションを体験して「気づきがあったかどうか」の5段階評定の質問項目の結果においては、5あてはまる(N=5,41.7%)、4だいたいあてはまる(N=7,58.3%)のいずれかの回答に集中した。

ARCS 評価の結果は Figure1 の通りの結果となり、おおむね受講した学生にとっては肯定的な体験であったと思われる。ただし C 自身の項目においてはやや得点が低かった【Figure1 参照】。

Figure 1 ARCS 授業評価シート結果

	度数	最小値	最大値	平均値	標準偏差
A 注意	12	5.50	8.50	7.15	0.82
R 関連性	12	6.25	8.25	7.35	0.68
C 自信	12	4.00	8.75	6.29	1.26
S 満足感	12	5.00	8.00	6.50	0.95

本セッションを受けてみて何らかの気づきがあったかどうかの質問項目に対して、回答された評定段階の4と5においてARCSの4尺度得点の平均値を比較したところ、C自信に有意な差がみられた( $t(10)=2.38, p<.05$ )。

また自由記述の結果からも、気づきを伴った肯定的な経験がおおむね確認でき、特に、実習中利用者や職員との間で生じた未完了な問題を本セッションによって完了する方向に向かったことがうかがわれる記述が確認できた。

### 5. 参考文献

※百武正嗣 エンプティチェアテクニク入門. 川島書店, 2004

※倉戸ヨシヤ エンプティ・チェア技法について. 現代のエスプリ 467, エンプティ・チェアの心理臨床, 7-28, 2006

※高良聖 サイコドラマの技法. 岩崎学術出版社, 2013

※大山博幸 ロール・プレイングとエンプティチェア・テクニクを活用した省察的学習～大学での社会福祉士養成課程における相談援助演習受講生を対象に～. ゲシュタルト療法研究. 2014

中尾文彦（やまと精神医療センター）

**【1. はじめに】**

ゲシュタルト療法は“気づき”を治療の中核に置く、現象学的アプローチである。そして同時に、Perls(1969)が「私たちは、未完結なものに限ってだけ、その過去の出来事を引きずっている」と述べるように、問題の見立てには精神分析と同様に過去の経験や発達の視点を参考にする。つまり、ゲシュタルト療法は理論や技法が確立された当時から今に至るまでずっと、過去が今に持つ影響力に注目し、自己の成長や発達を促すことを目指してきたのである。また Jacobs.L(1992)のように、精神分析的自己心理学や間主観性理論など、フロイト以降の現代の精神分析をゲシュタルト療法と統合させる試みもある。しかし本邦においては、ゲシュタルト療法と精神分析の違いを論じることはあっても、ゲシュタルト療法と精神分析の接点や、ゲシュタルト療法に精神分析的視点が役立つ可能性などについて、これまで検討が加えられることはなかった。

そこで本発表では、筆者が実施したゲシュタルト療法の事例を提示し、精神分析の視点がゲシュタルト療法の実践にどのように役立つ可能性があるのか考察する。なお、精神分析の理論や技法の全体はあまりに膨大なため、今回は精神分析の中核的な概念である、転移、逆転移、解釈、を考察対象とする。

なお、本発表の事例については、発表に先立ち、それぞれにあらかじめ書面にて同意を得ている。また、本研究は、筆者が所属する病院の倫理委員会にて学術活動の承認を得ている。

**【2. 事例】****事例①：医療機関での個人療法事例**

Aさんは、心気症と抑うつ感を主訴に筆者の勤める病院を受診し、医師に心理療法を紹介され、筆者と計18回の個人心理療法をおこなった。Aさんが面接にイメージを用いることに関心を示したため、体との対話など、ゲシュタルト療法を徐々に実施していった。するとその回ごとに抑圧していた感情や考えに気づくが、気づきが深まり自らの怒りに触れそうになると無感覚になってしまい、それ以上進展しない膠着状態へと完全に陥ってしまった。そのような中#11.で筆者が治療抵抗を話題にすると、会話中に筆者はAさんに怒っているような、それでいて怒られているような独特の感覚を味わった。そのような筆者の感情を心の中で吟味していくと、それはAさん自身が体験している感情でもあると思えたため、筆者が<今、怒られているような感覚ありますか？>と伝えると、Aさんは両親に怒られるとよく黙り込んでしまうことを連想した。その後、Aさんは少しずつ両親への怒りをワークの中で表現できるようになっていった。怒りを抑圧する傾向への気づきには不十分さは残るが、自分のことは自分でするように行動が変化し、主訴である心気症傾向もある程度改善し、終結した。

## 事例②：集団でのゲシュタルト療法事例

月1回、12回1クール、グループの中で参加者の個人的問題を扱うワークショップ形式のグループワークに参加したBさんは、初回から積極的にワークを申し出た。しかしそこで展開されるワークは筆者にはどこか元々知っていることを再確認しているかのような、やや新鮮味に欠ける感覚を感じるがあった。そのようなBさんとの4度目のワークの際、ワークを進めていくと、分裂する二つの思いの間で葛藤が生じていることが明確になったため、エンプティーチェアを実施した。そんな中、筆者の心にほんの一瞬だが、微かに怯えや後ろめたさが湧いた。それらの感覚はその場のワークの展開にはあまり符合しないように思うものの、筆者自身の神経症的な逆転移とも思えず、Bさんの感覚であるように思えた。そのため「僕の勘違いかもしれないけど、何か、怯えているような、後ろめたさのような、そんな感覚がほんの一瞬だけしたんだけど、そんな感じありますか？」と伝えると、「あっ、怯えてると言うより、罪悪感がある。」と筆者に罪悪感を持っていることにBさんは気づいた。その罪悪感に焦点を当てていくと、筆者とのワークにおいて初めて家族との問題を語り、ワークは展開していった。

### 【3. 逆転移と解釈の視点からの事例の考察】

特にAさんに顕著であったが、二人はPerls(1971)がインパスと呼ぶ、膠着状態に陥っていた。そのような二人とのセラピープロセスが進展するきっかけになったのは、筆者が自らの感情体験をクライアントの感情体験への共感と理解して伝えた時であった。つまり精神分析で言うところの投影同一視 (Klein.M, Bion.W) を筆者が理解し、それをセラピーの中で扱ったことである。

では、このような現象はゲシュタルト療法の技法論としてはどのように考察できるか検討してみたい。まず、筆者の介入後のクライアントの言動を考えると、クライアントは筆者に転移を起こしていた可能性が高い。ゲシュタルト療法における転移の取り扱いとしては、本邦ではクライアントの持つセラピストのイメージをエンプティーチェアに座らせてクライアントが自らの投影に気づくように促すか、あるいはセラピストに対して感じる感情をクライアントに時間をかけて味わってもらい探索する方法をとるか、そのどちらかが多いと筆者は考える。しかし本事例においては、気づかれていないため、それらは困難である。そのような状態を打開する契機になったのは筆者の感情体験、つまり逆転移のモニターと、それを伝えたことである。しかし江夏(2014)が述べるように、これまで本邦において、ゲシュタルト療法における逆転移の問題は、セラピストが個人ワークをすることを促すのみで、検討するための準拠枠を全く整備してこなかった。そのため、その第一歩として、対象関係論を始め、現代の精神分析の知見を検討することがゲシュタルト療法の実践の拡張のために必要であると筆者は考える。また、筆者が自らの感情を話題にしたことは、精神分析の文脈においては解釈となるが、これはゲシュタルト療法においては中間層や内層への気づきである。つまり解釈をしないことを信条とするゲシュタルト療法でも、解釈は行われているのである。



再決断療法を併用した個人カウンセリングの取り組み  
～自殺願望のある事例を通して～

三井洋子（株式会社 Dream Seed 長野ゲシュタルト研究会）

## 1. はじめに

ゲシュタルト療法のワークショップ参加を機に不調が表面化した事例とのかかわりをきっかけに、ゲシュタルト療法をベースに交流分析の理論と精神科領域での実践的知見を加えたアプローチを学び、クライアントの負担が少なくより安全に問題解決への支援をしたいと取り組んできたので報告する。

## 2. きっかけとなった事例

Nさん、当時入職2年目の20代女性

2006年ゲシュタルトのワークショップ後、母から独立したいと突然家を出て一人暮らしを始めるが、摂食障害、うつ症状が強まり、死にたい気持ちを抱え自傷行為も始まり、受診の結果療養休暇となった。その後治療して復職したが再発を繰り返す中で、2009年から再決断療法のカウンセリングを受け、2012年には服薬も受診も不要となった。

## 3. 個人カウンセリングに再決断療法を取り入れた理由

もともと再決断療法は交流分析とゲシュタルト療法の融合といわれている。加えて、クライアントのどこをどう変えたいのかということ聴きながら話し合い、①契約という形でカウンセリングのゴールを定めること、②ワークの時間を1回20分前後と設定していること、③精神疾患のあるクライアントへのアプローチが体系づけられていたことである。

## 4. セミナールーム「ブレス」での個人カウンセリングの概要

2010年よりセラピールーム「ブレス」を開設し、個人カウンセリングを行っている。カウンセリングは概ね90分（最大120分）で予約を受け付けている。

① 初回インテーク（120分）…カウンセリングを希望した目的、現状、生育歴や家族状況等々の聞き取り（再決断療法においては禁止令を元に見立てを行う）と目指す方向について契約を結び、カウンセリングの構造を確認する。

② 2回目以降のカウンセリング…現状の困っていることの実事、思考、感情、行動を聞き取りながらその日の契約を行い（50～60分）ワークを実施（30～40分）、ワークの振り返りと日常生活の中での宿題を検討する（10分）

## ③ 終結

クライアントの状況を聴き契約を決めていく過程も関係対話アプローチであり、その契約やクライアントの状況により、「今ここ」の気づきだけに焦点を当てるワークや、再決断療法の手法を用いたワークを組み合わせている。中には数回のカウンセリングがすべて関係対話アプローチ的な内容で終結に至ったケースもある。

個人カウンセリングを実施した54件について

(20014年1月～12月)

「存在するな」の 禁止令		精神科治療歴				療養休暇・不登校・ 引きこもり等			
あり	ワーク 実施	治療中	既往あり	治療なし	不明	あり	継続中	登校・ 復職	方向転換
36	16	24	9	12	9	15	5	7	3

5. 自殺願望を持つクライアントへの具体的な対応  
再決断療法では、インテークの際に「存在するな」の禁止令の有無を確認し、疾患傾向のあるクライアントでその禁止令がある人は、それを解除するワークを優先的に行うようにしている。これはカウンセリングそのものを中断することも予防する効果がある。
- 【ワークの構造】エンプティチュアを使う
- ① 生まれたばかりの自分を椅子に置き、この子は生きていく価値があるかを問う。
  - ② 生まれた子に親がどんな反応をしているか俯瞰し、自分がどんな気持ちかを感じ、未完了の感情を消化する。
  - ③ 親に対する期待を手放し、自分でこの子を愛し、守るという再決断。
- この再決断がうまくいかない場合、自殺観念が強い場合は死なない約束をする。以降、存在するな、重要であるな、健康であるな、子どもであるな、感じるな等の禁止令を意識しつつ再決断のワークを重ねる。
6. まとめ
- 精神疾患の傾向のあるクライアントに、より安全にアプローチするという一方で、必要な時には再決断療法の理論と手法を用いている。しかし、基本姿勢として「我と汝」、関係性対話や「今ここ」の気づき、感情や身体感覚のアプローチを大切にしてきた。
- ゲシュタルト療法をベースに、再決断療法の問題解決のための目的志向の利点が融合されることで、精神疾患傾向のあるクライアントに対してもより安全にアプローチすることが可能であると思われる。
- グループでのワークショップにおいても、疾患傾向があるかどうか事前情報がないことが増えているので、安全性に配慮することは不可欠と考える。ファシリテーターとしてそれを理解したうえで、「今ここ」の気づきや感情・身体感覚へのアプローチを通じ、人が本来持つ自己理解・自己成長の力に敬意をもって寄り添いたい。

**”現代型うつ”再発予防にゲシュタルト療法で関わる試み**

梅田福一郎（ゲシュタルト・アソシエイツ・ジャパン）

**1. 目的**

私が相談室を担当している IT 系企業では、”現代型うつ”を発症した社員が休職後、精神科医の「復職可能」の診断書に基づいて復職するが一年以内に再発を繰り返すケースが多く見られる。この状況を改善すべくゲシュタルト療法によって”現代型うつ”の再発予防に取り組んだ試みを報告する。

2008 年 3 月から 2015 年 5 月までの 9 年間の CL の内、うつ病の診断が出た CL は 43 名、内、従来型 19 名、現代型 24 名（梅田の判断）、休職者は 18 名、復職者は 10 名、退職者は 11 名、うつ再発者は 7 名であった。再発予防にゲシュタルト療法で関わった試みは最近の 4 年間で 6 名である。3 年後の現在 4 名は再発していない。

**2. ケース A：診断名うつ病 30 代女性、期間 1 年 6 ヶ月、全 35 回**

システムエンジニアとして 7 年勤務。国立大学マスターコース卒、中学、高校 6 年間皆勤。硬式テニス部副主将を務める。幼少の頃から好奇心旺盛、学業は優秀。家庭環境は、父は一流企業管理職、母は専業主婦、厳格な母親のもとで厳しく育てられた。自分も 100 点を取らなければならないと思っていた。母親からは、一流大学を出て一流企業に勤め一流の人と結婚することが幸せと教え込まれていた。

**うつ発症の状況と経過**

入社後 3 年ぐらいから微熱と身体の倦怠感の自覚症状。精神科医からはうつ病と診断された。体調不全で勤怠状況が悪くなり仕事も出来なく休職をすることになった。休職一年前に母親の反対を押し切って今の主人と結婚した。結婚を母親に反対されたことに対して、母親の期待に応えられない自分を責めている気持ちがある。A さんは、エンプティチャーで母親と話すことで今まで母親から言われて鵜呑みにしていた「私は一流になるべき」から解放され母親から自立していく自分に気づいた。

A さん自身が自分の性格の偏りに気づき、嫌いな自分も言うことを聞いてくれない夫も許せるようになり、家事も仕事も余裕を持って接することができるようになった。復帰 2 年後には子供を産み、仕事は育児をしながら働ける部署に変わった。現場での仕事の評価は良く子育てを手伝ってくれる主人との関係も良くなった。復帰 3 年後も再発の兆候はない。

**3. ケース B：診断名うつ病 男性 40 代 期間 10 ヶ月 全 25 回**

有名大学理工学部を卒業し、入社 22 年のシステムエンジニア。父親は一流企業役員、母親は大学卒の専業主婦。一人っ子として甘やかされて育った。現在の妻とは SE 同士の社内結婚。優秀な妻に頭が上がりずコンプレックスを感じている。

## うつ発症の状況と経過

一年前から不眠症、身体表現障害（手のしびれ）、抑うつ状態になる。精神科を受診しうつ病と診断され抗うつ薬と安定剤と睡眠剤が処方され半年間の休職の診断書が出て休職する。

休職後、当初は、早く仕事に就きたいという焦る思いが強かった。休職後も家にと妻の視線が気になるので毎日家を出てネットカフェやカラオケで時間を潰していた。週末は車を運転して子供と妻と買い物や遊園地に行くことができるが平日は家に居られない状態が続いていた。

## 4. 考察

： A のケース

ケース A は、ゲシュタルト療法では、葛藤の統合セラピーといえる。

「私は一流であるべき」というトップドック（べき人間）と「一流でなくても幸せになれる」というアンダードック（でも人間）がそれぞれの主張（価値観）をじっくり聴き合い、自分の中の二つの声と対話することで、一流であっても、一流でなくてもどちらでも良いと気づくことで葛藤から解放され楽になったケースと言える。夫との関係もお互いの価値観を話し合い（対話）、理解が深まったと言える。

： B のケース、

ケース B は、身体感覚に意識を向け続けることで今まで思考で考えていて理解できなかった不調の原因について CL の心理的な洞察を行うことが出来た事例と言える。数回のセッションで自分の身体が小さくなるのに気づき、5年前に子供が出来た時に妻が子供を厳しく叱っているのを見て怖くなり、妻に自分の本当の気持ちを伝えることが出来なかった自分に出会えた。

ゲシュタルト療法では「いま・ここ」の気持ちや感覚を感じ続けることは、CL が図として思考レベルで考えているところから、身体感覚・感情に居続けることで CL が気づいていない未完の事柄に出会い地の構造（無意識）に変化が起きたケースと言える。

A、B どちらのケースもゲシュタルト療法の「いま・ここ」のクライアントの気持ちに寄り添い続けることを行った。通常 SE のような頭で考えるクライアントの復職支援には認知行動療法などを使い考え方の癖を変える（認知の歪みの修正）ことで仕事に復帰するという方法が取られる場合が多い。しかし”現代型うつ”はうつ症状は軽症だが背景にある CL の性格や幼児体験からくる未完の事柄の解消を行わないと再発の可能性が高いと考えられる。今回のゲシュタルト療法による”現代型うつ”再発予防を目的に 6 例を試みたが今後さらに多くの臨床事例が必要と思っている。

ビジネス・産業分野へのゲシュタルトの活用

～クリーブランドゲシュタルト研究所の体験より～

藤原 勝 (ビジョンカムトゥルー株式会社) 「ゲシュタルト療法・東京」所属

【目的・方法】

米国クリーブランドゲシュタルト研究所 (略称; GIC) での経験をもとに日本でのビジネス・産業分野への応用を考える

【内容】

1. 「ゲシュタルトはビジネス分野への適用は難しい？」という思い込み  
私は再決断療法・ゲシュタルト療法と出会い30年以上になるが、主に自己成長が目的であった。仕事は企業対象に組織変革やリーダーシップ開発を行っているが、ビジネスへの応用は難しいと思っていた。特にエンプティ・チェアは感情表出を促進し日本企業の文化に適合しないと思っていた。
2. 二つの出会い
  - (1) 英国ゲシュタルト実践家 Talia Levine Bar-Yoseph Ph. D との出会い  
2011年、彼女から「ゲシュタルトは哲学。”我と汝”理論を元にチームビルを行う成功事例」を伺い、「日本のチームビルと同じ」と実感。
  - (2) 米国クリーブランドゲシュタルト研究所での体験・学習  
2013年10月より10回のトレーニングプログラムに参加。特徴は
    - ①個人の境界を尊重する
    - ②「経験(気づき)のサイクル」を組織に応用(システム理論)。日本で導入されているホールシステムアプローチのルーツだとわかる。
3. 組織変革手法のホールシステムアプローチ  
組織を個々の個人・職場と見ないで全体のエネルギーと見る  
< A I (Appreciative Inquiry) アプローチ >
  - (1) 概要; 希望と不安の共有→個人の強みに注目→グループの共通の強みに注目→明るい未来を創造(不安と希望にコンタクト、5感で感じる)
  - (2) ゲシュタルトとの共通点
    - ①強い個人・職場の境界→対話で境界を柔らかくし Connection を強くする(関係性)  
「自説を保留し傾聴する」「新しい価値をともに探索する」
    - ②強みに注目(Sensation)し「経験のサイクル」をグループで回す
    - ③思考でなく体験(感情と身体の活動)により Awareness を高める
    - ④有りたい姿を共有する(Organizational Consulting by Edwin Nevis) .
    - ⑤最後は思考に落とし均衡に戻す
  - (3) 結果; 一体感、モチベーションが上がり、将来ビジョンが共有される



## <OST (Open Space Technology) >

- (1) 概要；参加者がサークルになり、今日「責任と情熱を持って議論したい事」を挙げ任意の小グループになって問題解決策を議論する
- (2) ゲシュタルトとの共通点
  - ① 集団エンプティ・チェアで、顧客、職場の課題・人間関係に対して参加者の Sensation→Awareness を高める
  - ② 個別ではなく、全体性(全員で話をして決めていく)
  - ③ 「今、ここ」＝「始まる時が始まる時で、終わる時が終わる時」  
「2本足ルール (情熱と責任を感じなくなったら立去って良い)  
「参加者の投票」  
「経営者の`しょうちくばい (承・蓄・培) “
- (3) 結果；一体感、モチベーションが上がり、問題解決につながる

## 4. チームビルへの応用

- (1) 事例；職場の中の対立関係を緩和する。



上記1レベルを3レベルにしたいクライアント企業の要望でチームビル研修を実施

- (2) ゲシュタルトの応用
  - ① お互いに心情、価値観、生き立ちなどを共有 (場の理論)  
→ お互いの背景を知ると「相手への抵抗」が減る
  - ② 共同作業
  - ③ お互いに感じていることのフィードバック  
(クルトレヴィンのフィードバック理論) 中間領域も活用  
a 相手に役に立つこと、b データに基づく c プラスもマイナスも  
d 今ここで e 変容可能なこと f 勇気と愛情を持って
  - ④ 応用編として  
感情をIメッセージで伝え (感情)、質問する (中間領域)  
(Creative Process in Gestalt Therapy by Joseph Zinker,)
- (3) 結果；相互関係において、生理的な嫌悪感が減って協力しあうようになった。

## 【結論】

ゲシュタルトの「全体性」「Here&Now (現象学)」「経験のサイクル」は組織開発・チームビルに有効なアプローチ方法として使えることがわかった。

## 研究発表 6

### 日本における『I-Thou(我—汝)関係』の対話によるきずなの探究 “おかげさまで”

ジャクリン・ヒルトン (Australian Counseling Association)

“Dialogue (絆・きずな) は人のこころである。”

“わたしたちは誰でもみんな、密かに、必死に、私たちの個性、能力、そしてはかなさを認めてもらえることを懇願している。” (Hycner, 1995)

「関係的ゲシュタルト」の流れによって、個人的な‘私は私、あなたはあなた’の見識から、より全てが繋がっているというホリスティックな世界観へと向かっている。ゲシュタルトセラピストは、西洋人でも日本人でも、日本の伝統と文化を見つめ直すことで、そこから得るものがあると提案する。特に禅と茶道は、Martin Buber の “I-Thou(我、汝)” のあり方に共通点がある。

茶道や座禅を極めるには、精神的、感情的、身体的、心理的な努力と訓練が必要で、それは、セラピストとして、神聖で癒しの対話的療法の空間を作るときにも同じように当てはまる。

セラピストは、クライアントに対し、Dialogical Attitude(対話的あり方)を発揮するためには、自分との Dialogical Attitude(対話的あり方)を確立しなくてはならない。

(英文)

Exploring the potential for “I- Thou” Dialogical Relationships in Japan.  
“O kagesama de”

Jacqueline Hilton (Australian Counseling Association)

“Dialogue is at the heart of the human.”

“Each of us secretly and desperately yearns to be “met” – to be recognised in our uniqueness, our fullness, and our vulnerability.” (Hycner 1995)

As The Relational Gestalt movement leads the focus away from an individualistic “I am me, you are you” perspective towards a more holistic interconnected view of the world. I propose that we Gestalt therapists, both Western and Japanese can benefit from a closer look at Japanese traditions and culture. In particular the profound

parallels between Zen, the way of the tea and the work of Martin Buber, the “I- Thou” attitude.

The practise of Tea Ceremony or Zen mediation requires spiritual, emotional, physical, psychological effort and discipline, so too does the creation of the sacred, healing space of a dialogical therapeutic relationship.

*One must develop a dialogical attitude to oneself, before one can fully extend the dialogical attitude to another.*

「関係の質」に変化を起こす  
ーゲシュタルトをカップルセラピーに活かすー

岡田 法悦 (ゲシュタルト・インスティテュート)

【目的】カップルセラピーを行うとき、ファシリテーターがクライアントたちの「関係の質」に焦点を当ててワークをしたりフィードバックすることによって、カップル間の「関係の質」に変化が起きることを筆者らは体験してきた。ここでは、そのメカニズムと効果を、事例を交えて検証したい。

【方法】カップルセラピーは、夫婦やカップルの関係に携わるかかわりである。これは、パートナーとの関係の修復や、関係の解消がやむを得ない場合に心の傷を最小限に抑えるのに役立つ。筆者らが開発した「リレーショナル・カップルセラピー」は、「関係の質」に変化を起こす働きかけを特徴としている。

従来のカップルセラピーでは、カップル一人ひとりの心の問題のワーク、カップル間のやりとりの橋渡し、関わりやコミュニケーションパターンに変化を起こす働きかけなどに力を注いできた。これらの取り組みで一定の効果は見られる一方で、時間が経った後、同じ問題が再発したり、カップル解消後、次に知り合う別の相手との間で再び同様の関係を繰り返すことが観察されている。実際、カップル一人ひとりの心の問題をワークして気づきが生かされても、2人が再び顔を合わせた瞬間に元の関係に戻ってしまうことがあるのである。ということは、一人ひとりの気づきや行動変容、意識上のパターン変化の努力ではカバーできないほど強い何らかの「関係の力」が働いていることが推察される。筆者らはこの力を「関係磁力 (Relational Magnetism)」と呼び、それが、変化の難しい「関係の質 (Relational Quality)」を生み出していると考えている。

さて、ゲシュタルトセラピーでは人の内側の世界と外の世界を隔てる接触境界上に「中間領域」を想定している。筆者は、中間領域の層の厚さの変化に応じて、関わり行動に一定のパターンが生じることを体験的に見出し、関係の質を分類する方法を開発し、「RQモード分析」(RQ=Relational Quality)と名付けた。筆者は、これを企業研修に十数年用いてきている。例えば、チームの関わりや職場風土の質などは、RQモードを用いることによって当事者の理解が深まるので、チームワークの向上や職場風土改善に役立ってきた。職場の人間関係は役割関係が主なので、意識上の理解が変化を起こすきっかけになり得るが、カップルの関係の場合には意識上の関係に加えて無意識下の関係磁力が強力に働く。意識にのぼらない「触手」で2人が手を握り合ってしまうのである。なので、その質に変化を起こすには無意識の世界に手が届くファシリテーターの関わりが必要になってくる。

筆者らが開発したリレーショナル・カップルセラピーでは、RQモードのほかに、ユング心理学の元型理論と古来伝承の智慧に基づいた「4エレメント分析」、日常生活の中に顕れる関係の質を観る「ELP (Everyday Life Pattern) チェック」などの分析ツール、意識上の関係要因を図式化する「関係見取図」、無意識下の関係要因を図式化する「深層見取図」によって仮説を立てる。その上で、「今・ここ」で起きていることをゲシュタルトとフォー

カシングによって確認しながら関係磁力を生み出す元になっている感情・感覚にコンタクトし、関係の質に変化を起こす働きかけをしている。

【事例】博物館の学芸員 A 子 (54) を妻に持つ B 夫 (54) は、首都圏の地方公務員である。2 人は 12 年前に結婚。当初から A 子は京都、B 夫は首都圏と別居結婚の形態をとった。ある日、突然 A 子がリストラされ B 夫のもとに引っ越してくると、間もなく B 夫はうつ病の診断を受けた。職場で大きなプロジェクトをかかえ、残業も月 50 時間を超え、また地域住民との摩擦に苦しんでいたことで精神的に疲弊したためと本人も考え、産業医の勧めで休職が決まった。A 子と B 夫、そして B 夫の母と 3 人の同居生活が始まった。

筆者の相談室に A 子がうつ状態で来室したのは、それから 1 月が経ったころである。話の内容から A 子にカップルセラピーを勧め、最初は筆者が B 夫を、女性セラピストが A 子を担当することにした。リレーショナル・カップルセラピーでは、最初の少なくとも 3 回は、別々に個人セッションを体験することをお勧めしている。これは、最初から 2 人が向き合うと、「いつものパターン」から抜け出すのが難しいからである。

いつものパターンは、二人が子どもの頃、原家族の中で心の奥に刻みつけた未完の事柄や、自身と相手に対する役割期待などが絡み合っているものと考えられる。いつものパターンの中にいる時には「今・ここ」で生身の相手と直接接しているというより、過去に周囲にいた人々との関係を投影し、そのフィルターを隔てて接している場合が多い。そこで、個人セッションによりそのようなフィルターの存在に気づいた上で 2 人一緒のセラピーに進むのである。

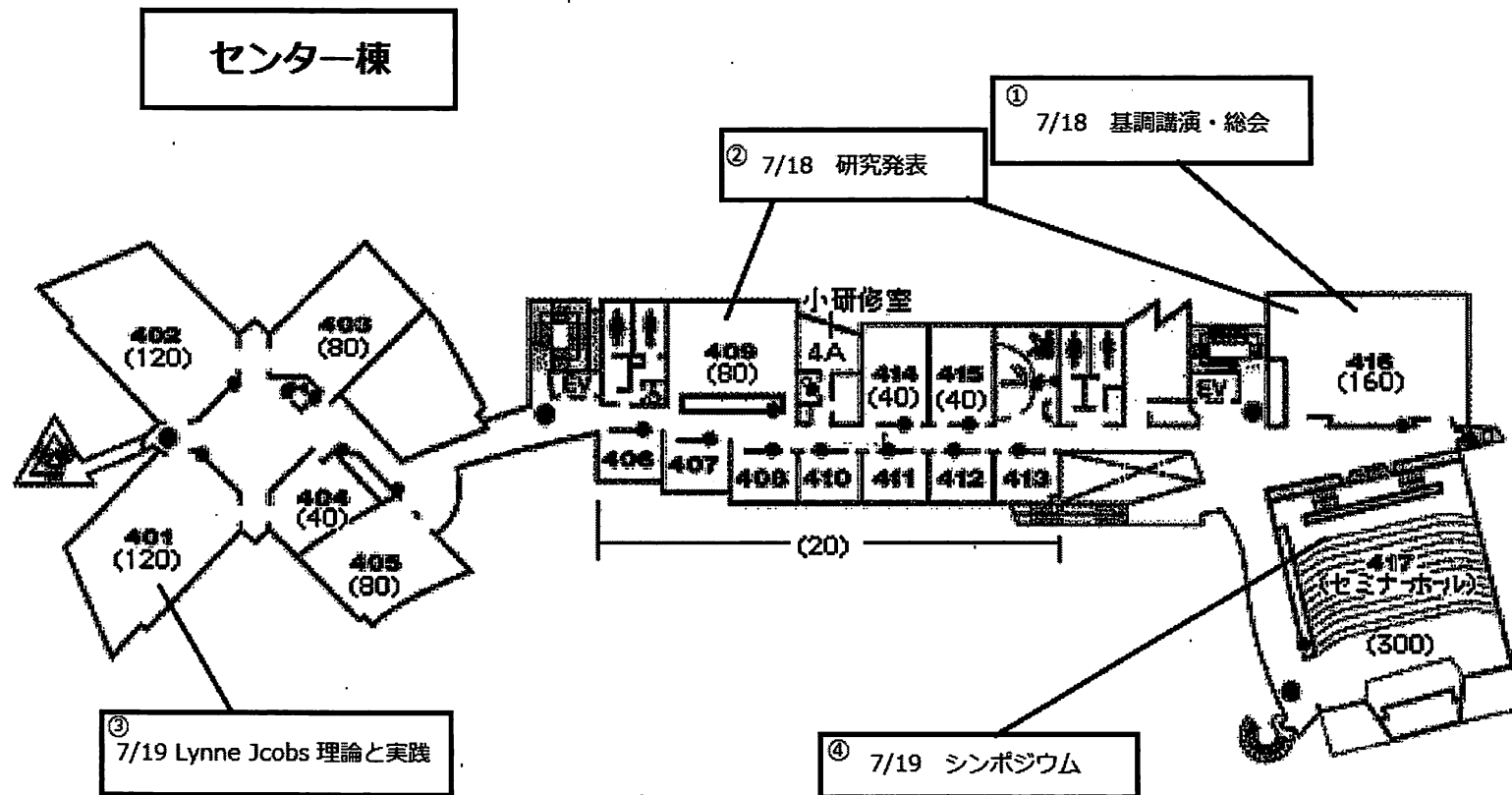
3 回ずつの個人セッションの後、筆者たちは入念なカンファレンスを行い、2 人の関係を分析した。RQ モードなどによる分析、意識上の関係を図示した関係見取図、幼児期からの人間関係も考慮に入れた無意識下の関係を図示した深層見取図により、2 人を結ぶ関係磁力が「無接触」モードであることが推測され、「今・ここ」のワークでもそれが裏付けられた。同時に、B 夫のうつも仕事より同居によるストレスが大きな原因であることがわかった。そこで筆者らは再び別居生活に戻ることを提案し、その結果 B 夫は回復して復職した。現在、時短勤務中である。2 人とも離婚は望んでおらず、関係の再構築を図ってセラピーを続けている。今では、セラピー以前の「いつものパターン」の関係の質に変化が起き、生身の相手を感じ取りながら関係を深めつつある。(いくつかの事例を重ね合わせてデフォルメしていることをご了承いただきたい。)

【考察】この事例の場合、RQ などによる分析と、ワークにおける「今・ここ」での関わりにより、2 人それぞれの原家族との関係で生じた未完の事柄が、相手と親密な関係を持つ障害になっていたことがわかった。夫婦関係を無接触に保ったまま、社会的安定を確保するために別居結婚という形態が選ばれたのは自然の成り行きと言えよう。職場における B 夫のストレスも、同様のパターンを職場でも持つことが個人セッションで明らかになっている。その中で B 夫は休職を指示され、A 子が同居する家庭での休養と回復を期待されたのであるから、休職によるうつ状態の悪化は当然の帰結と言わざるを得ない。

この 2 人は、ワークの場で自分たちが無意識裏に形成している関係の質を「今・ここ」で実体験することにより、当面は別居を続ける提案を受け入れた。そのことで 2 人とも心の健康を取り戻しつつある。同時に、B 夫はセラピーを通じて自分の人間関係構築能力が向上し、復帰後の職場での周囲との関係にそれが役立つ実感も得ているようである。



# 会場見取り図



7/18 17:30~ 懇親会は国際交流棟1階です



<MEMO>



## 日本ゲシュタルト療法学会第6回学術大会 「現象学とゲシュタルト療法の広がり」

開催日：2015年 7月18日(土)・19日(日)

大会長：檀野 竹美 (ゲシュタルト・アソシエイツ・ジャパン)

会場：東京都内(予定)

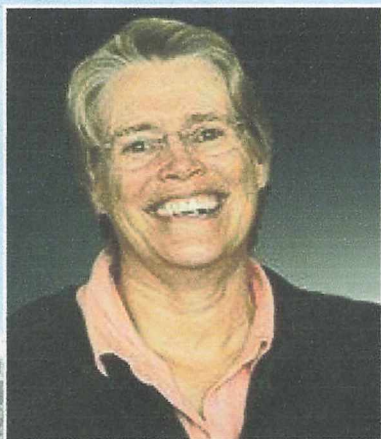
来年度(2015年度)の学術大会のお知らせです。

1年先のことですが、すでに動き始めています。

創設期の5年間を振り返ると、日本でのゲシュタルト療法関係者の絆が明らかに深まってきています。来年度からは、日本ゲシュタルト療法学会は発展期を迎えます。

それを踏まえ、第6回大会ではゲシュタルト療法の原点に戻り、『現象学』に焦点を当てます。また、関係対話アプローチや他の療法との交流も視野に進めております。この観点から、リン・ジェイコブス博士を招聘することになりました。

皆さまの、積極的なご参加をお待ちしております。



リン・ジェイコブス博士 (Lynne Jacobs, Ph.D)

Gary Yontef 博士と共に P G I (Pacific Gestalt Institute) を設立

論文も多数発表しており、最近では関係対話アプローチに関するものが多い。ゲシュタルトセラピストとして、また精神分析家として“現代”精神分析にも造詣が深い。

ロサンゼルスにある ICP (Institute of Contemporary Psychoanalysis) においてゲシュタルトセラピーのトレーニングコースを持ち、スーパーバイズを行うと共に、ロサンゼルスで個人指導を行っている。



2015年3月

# JAGT

日本ゲシュタルト療法学会 第6回学術大会 (第1報)

## プログラム

### 大会テーマ

**「 関係的視点とゲシュタルト療法の拡がり 」**

開 催：2015年7月18日（土）～19日（日）

会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター

大会長：檀野竹美（ゲシュタルト・アソシエイツ・ジャパン）



## 第6回学術大会に寄せて

日本ゲシュタルト療法学会 第6回学術大会  
大会長 檀野 竹美

2015年度の日本ゲシュタルト療法学会は、創設期の5年間を経て、発展期を迎えようとしています。

これまでの学術大会のテーマは、「多様な現場で活用されるゲシュタルト療法の役割」「ゲシュタルト療法の基礎と多様性、それらを繋ぐ創造性」「境界と絆」と、さまざまな視点からアプローチしてきました。

第6回学術大会のテーマは、「関係的視点とゲシュタルト療法の拡がり」です。ゲシュタルト療法を開発したフレデリック・パールズ、ローラ・パールズとポール・グッドマンは、多くの療法、学問、理論からの影響を受けているのは皆さんご存知の通りです。彼らは実存主義哲学、現象学、精神分析、性格分析、場の理論、ゲシュタルト心理学、東洋思想、サイコドラマ、演劇といった要素とヒューマニスティック心理学を生み出した時代精神を統合して、当時主流だった精神分析とは根本的に異なったセラピーを生み出しました。

それから60年後の現代にゲシュタルト療法を学び、活用している私たちに目を向けてみましょう。学会の学術大会に参加される方々は、ゲシュタルト療法を学び、さらに深く身に付けているとされていると思います。そのようにゲシュタルト療法に精通していかれることは素晴らしいことです。一方、他の心理療法についての関心はどの程度でしょうか。

皆さんは、日本でのゲシュタルト療法の実際を知らない、心理学や心理療法を学んでいる方に「ゲシュタルト療法は『グロリアと3人のセラピスト』で見たことがある」と言われたことがあることと思います。パールズのアプローチ映像は今の私たちが学んでいるものとはかなりかけ離れています。それと同じことが、他の療法でもあるのです。

今回の大会では、近年のゲシュタルト療法で使われている関係対話アプローチの第一人者 Lynne Jacobs 博士をお迎えして、彼女が今行っているいくつかのトレーニングの中でゲシュタルト療法の長所と精神分析療法の長所を組み合わせている方法などを交え、パールズ以来ゲシュタルト療法の中心的理論である関係性について、現在、どのようにワークショップ等で活用されているのかなどお話しいただきます。単純に「ゲシュタルト+〇〇」という鵜呑みではなく、自分で噛み砕いてゲシュタルトと自然に融合することが発展につながっているなど、具体的なお話も伺うことができます。


シンポジウムでは、認知行動療法、精神分析、森田療法、そしてゲシュタルト療法の国内第一人者に「各療法の独自性と共通性」(仮)というテーマでお話しいただきます。一堂に会した第一線で活躍されている方々から聴くことができる貴重なチャンスとなります。他の療法の実際を知ることにより、参加した皆さんにとってより広がりのあるゲシュタルト療法に出会える第一歩になることを祈念しております。

また、研究発表も年々内容が濃く、発表者も多くなってきています。今年の発表も楽しみです。発表されるそれぞれの方の実践や経験、研究を共有し、参加者との意見交換が活発に行われることを期待しています。

## 学術大会プログラム

※プログラムは一部変更になる場合があります。

### 7月18日(土)

9:30~	開場・受付	
10:00 ~10:15	開会式	
10:15 ~12:30	<p><b>基調講演 Lynne Jacobs 博士</b></p> <p>Gary Yontef 博士と共に PGI (Pacific Gestalt Institute) を設立。自らをゲシュタルト精神分析家としている。関係対話アプローチに関する論文も多数発表しており、世界的な第一人者として認められている。ゲシュタルトセラピストとして、また精神分析家として“現代”精神分析にも造詣が深い</p>	
12:30 ~14:00	昼食・休憩	
14:00 ~17:00	研究発表 1~5	研究発表 6~10
17:00 ~18:00	自由時間 (懇親会場設営)	
18:00 ~20:00	懇親会 (オリンピックセンター内会場)	

### 7月19日(日)

9:15 ~12:00	理論と実践 Lynne Jacobs 博士	
12:00 ~13:00	昼食・休憩	
13:00 ~14:15	研究発表 11~12	
14:30 ~16:30	<p><b>シンポジウム</b> 「心理療法の歩みと現在」~各療法の独自性と共通性~ (仮)</p> <p>&lt;シンポジスト&gt;  <b>認知行動療法</b> 熊野宏昭  <small>早稲田大学人間科学学術院教授、日本認知・行動療法学会理事長</small>  <b>精神分析</b> 妙木浩之 <small>精神分析家 (国際精神分析協会準会員)、</small>  <small>南青山心理相談室セラピスト/東京国際大学教授</small>  <b>森田療法</b> 岩田真理 <small>お茶の水セラピールーム代表、臨床心理士</small>  <b>ゲシュタルト療法</b> 江夏亮 <small>統合的心理療法家、臨床心理士、江夏心の健康相談室代表/カリフォルニア臨床心理大学院日本校准教授</small></p>	
16:30 ~16:45	閉会式	

## 学術大会参加申し込み方法

- 専用フォームに必要事項をご入力の上、お申込みください

※学生・院生の方は、申込時に申告していただき、当日学生証をご提示ください

第6回学術大会申し込みフォーム →→→→→  
(下記URLまたは右記QRコードからお願いします)  
<http://ws.formzu.net/fgen/S44927762/>



- お申込みいただくと自動配信で『お申込み確認メール』をお送りいたします

- お振込みの確認をもって、参加確定となります

お振込みの確認ができましたら、『参加確定およびご案内メール』をお送りします

- お問合せ先 ※ご不明な点は、下記までお問い合わせをお願いいたします

第6回学術大会事務局

e-mail [gakujututai6@gmail.com](mailto:gakujututai6@gmail.com)

電話： 045-752-1759 JAGT 事務局

(平日 9:00-18:00/土曜 17:00 まで)

## 参加費 (事前登録期間は3月1日～5月末まで) ・ 振込先

- 参加費

※学生・院生の方は、当日学生証をご提示ください

	3月1日～5月末 (事前登録)	6月1日～当日
会員	4,000円	5,000円
会員 (学生・院生)	2,000円	3,000円
一般	5,000円	6,000円
一般 (学生・院生)	3,000円	4,000円
懇親会費	5,000円	

- 懇親会費

会員・非会員とも 5,000円 (参加費と合算でお振込みください)

- 振込先 (大会専用口座)

三井住友銀行 東京営業部 (211)

(普) 3399780 檀野 竹美(ダツ 外)

★年会費の振込先とは異なります。年会費の振込先は学会HPでご確認ください

## 会場のご案内

### ■国立オリンピック記念青少年総合センター

<http://nyc.niye.go.jp/>

〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町 3-1

平日のみ 9:00~17:45 TEL03-6407-7703

### アクセス 電車

<http://nyc.niye.go.jp/train/>

#### JR 東京駅から

JR 中央線 約 14 分 新宿駅乗り換え

小田急線 各駅停車 約 3 分

参宮橋駅 下車 徒歩約 7 分

#### 小田急線

参宮橋駅下車 徒歩約 7 分

#### 地下鉄千代田線

代々木公園駅下車(代々木公園方面 4 番出口)

徒歩約 10 分

#### 羽田空港から

東京モノレール 約 23 分 浜松町駅乗り換え

JR 山手線(外回り) 約 23 分 新宿駅乗り換え

小田急線 各駅停車 約 3 分

参宮橋駅 下車 徒歩約 7 分

京急本線 約 16 分 品川駅乗り換え

JR 山手線(外回り) 約 23 分 新宿駅乗り換え

小田急線 各駅停車 約 3 分

参宮橋駅 下車 徒歩約 7 分

#### 京王バス

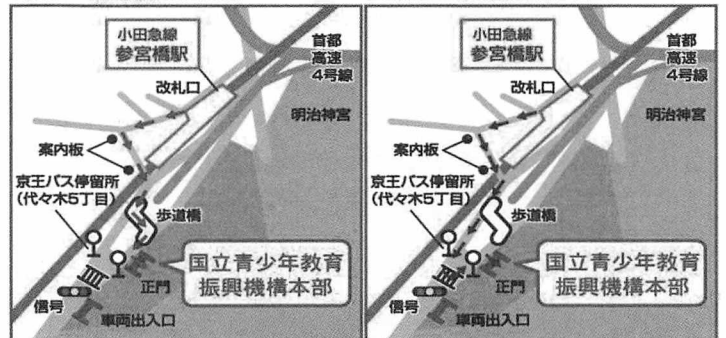
新宿駅西口(16 番)より 代々木 5 丁目下車

渋谷駅西口(14 番)より 代々木 5 丁目下車



参宮橋からの【歩道橋】を使った経路

参宮橋からの【横断歩道】を使った経路



## 宿泊のご案内

### ■大会会場に宿泊施設もありますが、室数が少ないため、直接施設にお尋ね下さい

独立行政法人国立青少年教育振興機構国立オリンピック記念青少年総合センター

★宿泊施設利用に関する申し込み・お問い合わせ

TEL03-3469-2525

利用申し込み 9:00~15:00

※休館日を除く

申し込み後の変更・ご利用に関するお問い合わせ 9:00~17:00

★お申し込みは、「7月18-19日開催の日本グシュタルト療法学会に参加」と伝え、D棟宿泊(シングル/一泊5,100円)の空き状況をお尋ねください。

★その他・利用以外のお問い合わせ

TEL03-6407-7703 平日のみ 9:00~17:45

# 研究発表募集

みなさまの日ごろの実践をぜひご発表ください。  
まず、演題を登録してください。その後、発表抄録を締切日までにご提出ください。  
受付期間・締め切りは下記の通りです。

受付中！！

1. 演題登録 期間 2015年2月1日(日) 受付開始～  
2015年3月31日(火) 24時 受付終了
2. 演題登録 方法 JAGTのホームページの問合せフォーム(下記)から下記の  
内容をお送りください  
[https://www.ja-gestalt.org/form\\_toi.html](https://www.ja-gestalt.org/form_toi.html)
  - 1.研究発表登録申し込み
  - 2.会員番号
  - 3.氏名
  - 4.演題(仮で構いません)
  - 5.フォームの住所欄もご記入ください
3. 発表抄録原稿 締め切り 2015年5月31日(日) 24時
4. 発表演題・抄録原稿の送り先  
下記「6. 発表抄録の作成要領」に基づいて抄録を作成の上、  
Eメール(添付ファイル)か郵便で学会事務局に大会長宛てでお送りください。(郵  
便の場合、データをCD-ROM等で同封のこと)  
■E-mail: 学会事務局 jagt@ja-gestalt.org  
メールの件名またはヘッダーを  
「第6回学術大会発表抄録原稿、ご自身のお名前」で始めて下さい。  
■郵便 : 学会事務局  
住所: 〒235-0023  
横浜市磯子区森1-10-9-201  
ハートフリースペース内  
JAGT 日本ゲシュタルト療法学会  
宛名: 第5回学術大会大会長  
封筒の表の左下に、「第6回学術大会発表抄録原稿」と朱書きして  
下さい。
5. 発表者について  
発表者は、演題登録締め切りまでに本学会会員であることが必要です。  
会員でない方は日本ゲシュタルト学会事務局(JAGT)までお問い合わせいた  
だき、入会手続きをおとりください。



## 6. 発表抄録の作成要領

発表抄録原稿は下記の作成要領を参考に作成ください。(下記図もご参照ください)

- A4 版ワープロ用紙（白紙）を縦置きにして、文字方向は横書きとします。
- ワードのページ設定から上下左右の余白を 20mm に設定してください。
- フォント設定から MS 明朝体、12 ポイントを指定して作成してください。
- 文字数と行数を指定で、文字数 40 字、行数 40 行に指定してください。
- タイトル・1 行空けて氏名（所属：10.5 ポイント）を明記し、全 2 ページ以内とします。題名、発表者（所属）は中央揃えにしてください。

The diagram illustrates the layout of a manuscript page. It features a central text block with the following content:

( \* 上余白 : 2cm あける )

福祉現場におけるエンプティチェアの実践の試み

( \* タイトルの文字は 12 ポイント。1 行あける )

〇〇川 〇美 ( 〇〇〇〇クリニック )

( 名前の大きさは 12 ポイント・所属 : の大きさは 10.5 ポイント。1 行あける )

**【目的】** 福祉現場におけるエンプティチェア・テクニックを实践……

**【方法】** 〇〇クリニックの同意が得られたクライアントを対象に、エンプティチェア・テクニックを実施……

( \* 左右余白 2cm )

..... ( \* 本文の文字の大きさは 12 ポイントとする )

**【結果・考察】** エンプティチェアを実施したA群は、対照群と比べ……

.....

本研究の結果から、.....

( \* 下余白 : 2cm あける )

The diagram includes arrows indicating the 2cm margins: a vertical arrow at the top for the top margin, a vertical arrow at the bottom for the bottom margin, and two horizontal arrows on the left and right sides for the side margins.

## ボランティア募集

《6回学術大会のボランティアを募集します》

PCが得意な方

体力自慢の方

ひとりで作業するのが好きな方

アバウトな方

小回りが利く方

ちょっと手伝ってもいいという方 e t c.

e-mail [gakujututaikai6@gmail.com](mailto:gakujututaikai6@gmail.com)

までお願いします